

学校概要

創立	61周年	学校長	川上 裕二	副校長	矢田 俊彦	学期	3学期制	児童・生徒数	495人
学級数 一般級: 17 個別支援級: 3				主な関係校: 西本郷中学校 飯島中学校					

学校教育目標

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
 ○自他の心情を尊重し、共に支え、高め合う関係を大切にします。(徳・開)
 ○自分のめあてを見つけ、主体的に課題の解決に努める姿勢を大切にします。(知)
 ○よりよい生活を送るための実践力を身に付け、生きる喜びを実感できるようにします。(体・公)

学校の特徴

- いたち川を中心とした豊かな自然や子どもたちが親しんでいる中坪公園などの公園、徒歩圏にある公共施設、協力的な農家や企業などが地域にある学校であり、生活科や社会科、『横浜の時間』の学習などに活用できる材が豊富である。
- 学力・学習状況調査やYP、保護者アンケートの結果からは、学校活動に肯定的で成就感を持つ児童・保護者が多い。
- 保護者・地域からの信頼は厚く、教育ボランティアや学援隊などの活動、PTA活動が協力的で活発である。
- 授業づくりに熱心な職員が多く、職員の協力体制も良い。
- 生活面や学習面で、個別に配慮や支援を要する児童が多い。
- 学力状況調査やの結果からは、市平均よりは良いが、引き続き基礎・基本の定着に取り組む必要がある。

学校経営中期取組目標

- 子どもたち一人ひとりがかがやき、認め合い、伝え合い、高め合う子を育てるために、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。
- ・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力の向上を図ります。
- ・一人ひとりの子どもが、自己有用感をもち、安心して、楽しく学校生活が送れるようにします。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
- ・まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
- ・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、社会・地域の要請や信頼に応えた学校づくりを進めます。
- ・全教職員が学校経営に主体的に参加し、活力のある学校づくりを推進します。

小中一貫教育の取組

西本郷中	ブロック	西本郷中学校 笠間小学校
9年間で育てる子ども像	○小中9年間でコミュニケーション能力を高め、まちで生きる子ども	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動の充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科・領域においてテーマを意識した授業を展開する。 ・児童生徒交流日に、6年生が中学校訪問をし、積極的に参加する。 ・夏季水泳教室、6年市体育大会、5年球技大会などで中学校部活動と交流する。 ・教務主任会や専任会などで得た情報を基に、自校の学習指導や生活指導の改善を進める。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	教育課程の検証に加え、「学び合い」を大切に重点研究を行う。基礎・基本の定着、特別支援の充実、ユニバーサルデザインによる分かりやすい授業を	①教育課程を検証に加え、「学び合い」を大切に重点研究(今年度は体育)を行い、自他の見方・考え方を大切に共に学ぶ児童の育成をめざす。②どの子にとっても分かりやすく、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進する(ユニバーサルデザイン)。③一人ひとりの児童を見取り、学級学年集団を把握し、基礎・補充・発展などを取り入れた授業、特別支援の充実、少人数指導、基本の算数タイムなどの多様な授業形態を取り入れ、指導の充実を図る。
豊かな心	全教育活動において、自他の見方考え方を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする心情や態度を育てるとともに、子どもの自尊感情、自己有用感を育てる。	①「あいさついっぱいみんなが笑顔の西本小」をスローガンに掲げ、年間を通じて「あいさつ運動」を展開し、自ら進んであいさつできる子を育成する。②全校縦割りによる「なかよし班活動」を取り入れ、異学年の中で互いに認め合える心を育成する。③道徳の時間はもとより、全教育活動を通じて、自他の見方や考え方を大切に育てる態度を育成する。
健やかな体	子どもの体力・健康面の姿から課題を明確にし、体力向上一校一実践運動の「体育朝会」を中心としながら、教育活動全体を通して体力向上を目指す。	①月一度の体育朝会の中でラジオ体操や縄跳び運動を実践する。②体力テスト等の結果をもとにした、体力向上一校一実践運動の改善を図る。③保護者の理解のもと「健康で安全に過ごすための生活習慣づくり」を推進し、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。
児童・生徒指導	自ら進んで挨拶し、互いの良さを認め合える心情や態度を育てる。また、全職員が「学校スタンダード」を共有して指導し、いじめ防止・早期発見に努める。	①「西本小スローガン」や「学校のきまり」を、全職員で共有するとともに、いつも共通した指導ができるような態勢にしておく。②運営委員会や職員会での学年間や管理職、専任との連絡や報告を密にするだけでなく、日常のおける相談を大切に、いじめなどの事案に対して迅速且つ的確に対応できる態勢にする。
特別支援教育	一般学級および個別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の支援体制の構築および指導内容の拡充を図る。	①個別支援級はもちろん、全学級においてユニバーサルデザイン化を進め、誰もが安心して学習できる環境整備に努める。②学力に課題がある児童に対して、特別支援教室による個別学習の機会を設け、児童の能力に応じた教育ができるようにする。③配慮を要する児童について、全職員で実態を共通理解する研修の場を設け、児童の実態を共有する。
地域連携	学校公開日や運動会などの行事、学校説明会、懇談会などを通して開かれた学校づくりに努め、保護者・地域の様々な人材と連携・活用を図り、より良い学校づくりに努める。	①運動会などの学校行事や各学年の教育活動に対して、保護者・地域の積極的な参加協力を活かすことで、児童の学習活動の更なる充実を図る。②教育ボランティアや学援隊の方々と連携を強化し、学校の教育活動の更なる充実を図る。
学校運営協議会	学校運営協議会を通じて、地域の理解・協力・提言をいただくことで、開かれたより良い学校づくりに努める。	①各地域・立場の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、協議会の充実を図る。②協議会委員の方々に、さまざまな学校行事に参観・参加していただくことで、学校づくりに参画していただき、児童・教職員・地域がより一層協力し合う学校づくりに努める。
人材育成・組織運営	若手教職員の指導力向上を目指しメンターチームが研修を行うとともに、校務分掌の特質を生かした校内研修・会議を行い、教職員のスキルアップを図る。	①メンターチームを組織し、実践提案、授業研究会を行い、適任者が講師となり、定期的に継続して行うことで、学習指導、児童指導、危機管理対応能力など教職員の力量の向上を図る。②情報の共有化を図り、校務分掌の特質を生かした校内研修を行い、組織としての共通理解を図り、機能性を向上させる。③運営委員会、教務会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営をしていく。
いじめへの対応	あらゆる教育活動を通じて、「だれもが安心して豊かに」生活できる学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○全教育活動を通じた道徳教育や人権教育の推進、体験活動の充実(「豊かな心の育成」推進プラン) ○いじめを許さない学校風土の醸成(児童会活動の活性化、子供の社会力スキル構築プログラムの活用) ○一人ひとりの自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動の推進(学級活動、委員会・クラブ活動、全校なかよし活動) ○児童が「できる、分かる、楽しい」を実感できる授業力の向上(学年研究、重点研究) ○教師と児童の信頼関係の規律ある学校生活を送るためのきまり(西本小スタンダード) ○保護者へ、インターネットの危険性の注意喚起、及び情報モラル教育の推進(サイバー・ネット安全教室)